

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703113		
法人名	株式会社 グローバルケア		
事業所名	グループホーム グローバルケア		
所在地	〒807-0078 福岡県北九州市八幡西区中の原1丁目4番7号 093-612-6007		
自己評価作成日	平成25年01月26日	評価結果確定日	平成25年03月03日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年02月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

学習療法(東北大学 川島隆太監修 公文学習療法) 週5日1回15分~20分
 散歩 天候の良い日(炎天下、極寒の日以外)風邪・インフルエンザが蔓延している時期を除いて、気分転換を兼ねて近くの公園等に散歩に行きます。 自立支援・配膳の手伝い・食事の準備や片付け・植物の手入れ・掃除の手伝い等 音楽セラピー(認知症介護カリキュラム)遠賀郡在住のピアニスト・水上 裕子氏による音楽セラピー実施(H23年6月からは、顧問契約を結び月1回セラピー開催)している。
 空いている時間は、「軽体操」や「言葉遊び」を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グローバルケア は、開設8年目を迎え、利用者が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせるための、音楽療法や、学習療法を活かした身体機能維持向上の取り組みは、利用者の介護度の維持と自信回復に繋げ、家族の「ここを選んで良かった」という信頼に結び付いている。ホーム正面の多目的公園の桜の蕾も膨らみ、ゲートボールや野球を見ながら、散歩する利用者は、生き生きと楽しそうである。町内会に加入し、公民館活動や盆踊り、敬老会、運動会に利用者と職員が参加し、ホーム主催のコンサートには、たくさんのボランティアが参加し、地域交流の輪が広がっている。また、管理者と職員は、介護サービスの原点を忘れずに、利用者と家族と、ホーム職員とのコミュニケーションを大切に介護の実現を目指している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夜勤から日勤への申し送り(朝礼)時に、全員で唱和し、実践している。	理念、「笑顔」「尊厳」「研鑽」を掲示し、朝の申し送り時に信条を職員全員で唱和し、共有した上で、利用者一人ひとりの希望に沿える介護サービスの取り組みを実践している。また、職員は、介護で迷ったり、悩んだりした時、理念に戻り、初心に帰る事で、介護サービスの向上に繋がっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や地域の催し物(盆踊り・運動会・敬老会・公民館行事など)に、積極的に参加している。また、ホームの行事にも地域の方が参加している。	ホームの前に桜が咲く広い公園とグラウンドがあり、野球やゲートボールに地域の人々が興じる姿を眺める事が利用者の日課となっている。町内会に加入し、地域の盆踊り、運動会、敬老会、公民館行事等に、利用者職員が積極的に参加し、親しくなった地域の方と散歩時に会話をするなど、地域交流の輪が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域における貢献について考えつつ交流を図っているが、なかなか思うように出来ていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H24年度は、おおむね2ヶ月に1回実施しようとしているが、日程の関係か?民生委員や地域包括センターの方々の全員参加が上手く出来ていない。	運営推進会議の定期開催が長年の課題であったが、管理者の努力により、今年度から開催し、参加出来る委員の協力を得て意見交換会となっている。今後は日程調整を入念に図り、地域包括支援センター職員、地域代表にも参加をお願いする等、更に充実した運営推進会議となるよう検討を重ねている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居の空き状況等を、地域包括センター担当者や役所窓口と連絡し、また介護相談員受け入れを行っている。	ホームの現状や取り組みについて、行政担当窓口や地域包括支援センターに情報を提供し、利用状況の報告、相談、問い合わせを行ない、地域包括支援センターから利用者の紹介がある等、行政と協力関係を築くよう取り組んでいる。また、介護相談員の受け入れもやっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き施錠していない。拘束をしない介助は、実践的に実施しているが、職員全員が「具体的な禁止行為」を十分理解できているとは、言えない。さらなる取り組みが必要だ。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、様々な事例をもとに、職員間で話し合いながら、身体拘束が利用者にも与える影響を理解し、「具体的な禁止行為」の確認を行い、「言葉かけ」「声かけ」については、気付いた時に、その場で注意し合うようにするなど、身体拘束をしないケアの実践を目指している。また、玄関の鍵は、日中は施錠せず、利用者が自由に出入り出来る環境である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルは作っている。職員の行為が、入居者に対する「身体的・言葉の虐待」につながらない様、日々防止に努めているが具体的な研修までは出来てない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の対象者がいないため職員について研修等は不十分であるが、資料・パンフレットは置いている。早々に制度を理解し研修を実施したい。	現在、制度の利用者はいないが、資料を用意し、制度を必要とする利用者や家族にいつでも説明出来る体制を整えている。また、制度を必要とする利用者や家族には、関係機関を紹介し、いつでも申請が出来るよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでの催し物(コンサート・モリフォーラム等)の際に、参加の呼びかけを行い、意見や要望を集約する機会を設け、運営に反映させている。	家族の面会が多く、面会時に声かけし、意見、要望を聴いている。ホーム行事、運営推進会議の機会、又は電話にて、家族の意見や要望を聴き出す努力をしている。また、利用者の健康状態、日常生活を伝えるホーム便り「グローバルケア通信」を再開し、家族の安心に繋がる介護サービスの取り組みを始めている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の主任会議を行っているが、職員の意見や提案が、集約できる様努めている。	職員会議は、月に1回を目標に就業後の一時間、出来ない時には時間内に出勤者で行い、利用者や業務に関する注意事項等を管理者が議事録ノートにまとめ、回覧し、情報を共有して、介護サービスの向上に繋げている。また、職員の意見やアイデアが活発に出されるよう、会議の方法、内容を工夫していき事を検討している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H22年9月「キャリアパス要件」等の届出も正しい条件の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	本年度の職員採用面接後、適性検査や一般常識のテストを実施する様になっている。また、既存の職員については、「キャリアパス要件」を提示して、配慮している。	職員の採用は、適正検査や一般常識のテストを取り入れ、年齢、性別、資格、経験によらず、人間性を重視している。また、職員の得意分野を活かした仕事への取り組みを大切に、職員一人ひとりが生き生きと充実した介護サービスが出来る職場環境になるよう取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育については取り組んでいるが、啓発活動への取り組みは、十分でない。	ホームの理念と信条を毎朝唱和する事で、利用者の人権が守られているかという事を意識している。介護抵抗のある利用者の言われる事は、職員を見ているからこそ受け止め、利用者からも多くを学ばせてもらっている。職員は常に人権を意識し、利用者の尊厳を守りながら、利用者の安心した暮らしに寄り添う介護サービスの提供を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H22年1月からつき1回のペースで「職員社内研修」を実施している。さらに、H23年4月からは、「主任研修」を実施している。主任研修において「新人職員に対しての、作業チェックシート」を作成し、使用している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修機会はあるが、十分な取り組みは出来ていない。出来るだけ取り組みたい。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者と共に第一段階で関係づくりを行い、適宜会議を実施し、すり合わせを行っている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者と共に第一段階で関係づくりを行い、適宜会議を実施し、すり合わせを行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の入居状況により、「訪問マッサージ」や「訪問歯科」「行政の利用できる制度」(おむつ給付など)を取り入れている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	申送り(朝礼)時に唱和する、「ホーム信条」にもその項目を、取り入れ暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの見直し時、ご家族の面会時、日常の健康管理のありかた等を、きっかけにしてご家族(キーパーソン)と、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅での生活歴・ご家族からの情報を職員間で共有して、支援に努めている。	家族の面会が多く、親戚や知人、友人等の来訪も時々ある。「会わせたい人がいるんですが」という家族からの申し出に相談に乗ったり、来訪者が訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、様々な支援をしながら馴染みの関係の継続に取り組んでいる。また、利用者同士、利用者職員との関係も新しい馴染みの関係として大切にしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介するなどして、支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援要請があれば、最大限協力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主任会議、ホーム会議で検討している。また、職員研修で事例として他ホームの意見も聞いている。	職員は、利用者に寄り添い、利用者のしたい事、食べたい物、行きたい所等の把握に努め、家族と相談しながら実現に向けて取り組んでいる。また、利用者の意向表出が困難な場合には、過去の履歴や介護記録を読み返し、ベテラン職員に相談する等、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護要約・診療情報提供書等で把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主任会議、ホーム会議で検討し、現状の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しや、検討を通じて現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者の思いを聴きとり、面会時に家族の要望を確認し、関係者と検討して3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、介護計画の見直しをその都度実施している。利用者の重度化が進む中で、家族の協力が重要となってくる事から、常に連携を密に取りながら、家族との信頼関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主任会議、ホーム会議で検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分な取り組みは、出来ていない。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分支援できていない。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回の受診を基本に支援し、入居者の方の健康管理に努めている。	現在、協力医療機関とかかりつけ医の受診支援を行っているが、協力医療機関への隔週毎の定期受診支援と、家族の協力を得ながらのかかりつけ医への受診により、利用者の健康管理に努めている。また、夜間の緊急時には、主治医の判断で救急搬送になる事もある。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1ヶ月に2回程度の看護師勤務実施。携帯電話利用で支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院、ホーム(事務長・ケアマネージャー・主任・看護師)で、対応している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・その他の医療機関と連携を取りホーム(事務長・ケアマネージャー・主任・看護師)と御家族と十分な話し合いを行っている。重度化した場合は、ご家族と連絡を密に行い対応している。また看取り書類一式に署名・押印はいただいているが、現実の対応は経験していない。	具体的な支援内容を明記した看取りに関する指針を作成し、入居開始時に、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進む中で、利用者、家族の希望を聴きながら、利用者一人ひとりに合わせた対応を職員間で話し合い、いつまでも地域の中で、その人らしい充実した暮らしの支援が出来るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは備えて対応しているが、定期的な訓練は、出来ていない。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練で避難訓練は、年2回実施し夜間想定訓練も実施しているが、地域との取り組みは、思うように出来ず十分ではない。また、地震や水害などの訓練は、実施していない。	消防署の協力と指導を得て、年2回、防災訓練を実施している。非常口、避難場所、防災機器の確認等を行い、夜間想定訓練も実施している。また、近くに住む職員や近隣住民の協力体制の確立を目指している。スプリンクラーを設置し、災害時の非常食、飲料水、毛布、非常用備品等も備蓄している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人にあわせた声掛け、プライドを傷つけない対応やプライバシー保護に十分注意を払っている。	職員は、利用者を人生の先輩として大切に接し、「男としてのプライド」「女としてのプライド」や羞恥心に配慮して、失禁や汚れに関しての伝え方等、一人ひとりに合わせた対応をしている。また、職員は常に利用者寄り添い、利用者の思い等聴き出しながら、利用者が尊厳を持って暮らし続ける支援をしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主任とケアマネージャーを中心に、働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て希望にそっているとは言えない部分もあるが、出来るだけできる様、支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容の希望など本人の意思を尊重し支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全部の入居者様ではないが、出来るだけ残存機能に応じた、食材準備・盛り付け・後片付け等、一緒に行っている。	食事は、同法人厨房からのおかずの配食と、ホームのガス釜で炊いたご飯、職員が作る汁物が提供され、利用者と職員が同じテーブルで楽しそうに食べている。毎週金曜日を「自炊の日」とし、手作りの食事を楽しんでいる。また、クリスマス会や敬老の日、誕生日には、食べたい物を聞き、ケーキを用意したり、時間がある時にはおやつ作りに挑戦したり、食べる楽しみを大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の形態に応じた支援をしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後は、夜勤者1名の為十分ではないが、一人一人の状態に合わせた口腔ケアをしている。昼食後は職員が時間をかけて行っている。また、週1回の訪問歯科にて「口腔ケア」の指導があっている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアマネージャー・主任を中心に「個別ケア」（自尊心を傷つけないような声掛け、定期的な誘導）を行っている。	トイレに行く事がりハビリティと考え、職員は利用者の習慣や排泄パターンを把握し、さりげない声かけや的確な誘導で、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。また日中は、紙パンツの利用者が2名で、6名は布パンツで過ごす等、職員の励ましと利用者の頑張りを実を結び、自信回復に繋がる排泄の支援が出来ている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の状態に合わせた予防をしている。また、排便困難が目立つ方には、「寒天」を摂取してもらっている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には月・水・金曜日の入浴日だが、時間帯などは本人の希望に応じている。また、入居者の表情を汲み取り、柔軟に対応している。	入浴は週3回であるが、利用者の希望や健康状態を配慮しながら曜日を変更する等、柔軟に支援している。また、入浴嫌いな利用者には、無理強いせず、その気になるのを気長に待ちながら、翌日に入ってもらおう等している。入浴の時間は、利用者と職員がゆっくり対応する事ができ、利用者の本音が出る等、大切なコミュニケーションの時間となっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の状態に合わせた支援をしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1ヶ月に2回の受診を基本に服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主任会議、ホーム会議で検討し、支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人一人が重度化しつつある中、思うように出来ない部分もあるが、極力支援している。また、御家族にも協力していただいている。	ホームの目の前の公園への日常的な散歩、近所のホームセンターやスーパーへの買い物等、季節を五感で感じる大切な日課の一つとして、出来るだけ自然の風に触れる支援をしている。また、月に1回は同法人の他事業所に出かけたり、家族の協力を得て、普段行けない場所への外出の支援が出来るようお願いしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望・希望に応じて支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望・希望に応じて支援している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用に出来るだけ生花を置いたり、年中行事に合わせた入浴(菖蒲湯、ゆず湯など)を実施して、工夫している。	住宅地の中に自然が残る公園の正面に位置し、家庭的な雰囲気のグループホームである。天窓からの採光で明るく開放的なリビングルームには、手作りのカレンダーやキルティングの作品等が飾られ、家庭的な温かい雰囲気である。テーブルでは、利用者と職員が頭をくっつけて会話をしながら熱心に学習療法に取り組む姿が見られた。簡単な文章の読み書き、計算、音楽療法等を取り入れ、メリハリの利いた介護サービスの提供で、生きがいを持った暮らしに繋げている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分とは言えないが、極力工夫している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	要望・希望に応じて本に本位の暮らしの支援をしている。	居室は、利用者が寂しい気持ちにならないようにと、家族の協力で、利用者の好みの物が持ち込まれ、賑やかに飾られている。自宅と違和感のない楽しい暮らしのために、関係者が協力して作り上げたその人らしい居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えないが、極力工夫している。		